

2011年度

科目名	日本語と英語			
担当教員	溝口 健司			
配当	教福2		コード	12049
開期	通年	講時	月曜日2限	単位数 4
授業テーマ	日本語と英語の諸相を比較することによって、それぞれの言語と文化の特質を探る。			
目的と概要	人間という同じ動物種の産物である以上、日本語と英語は言語の本質部分を共有している。しかしまた、日本語も英語も、それぞれが固有の地域で固有の文化・歴史を基盤として成立しているために、非本質部分で固有の性格をもつことも事実である。両言語の相違は、言語類型、語彙、語順、文構造、音韻体系、文字体系、情報構造、時間表現、場所表現、翻訳可能性、表現性、発想、論理性などの個々の領域において、またいくつかの領域をクロスした形で現れる。日本語と英語がなにを共有し、どの部分がどのように異なり、そしてそれはなぜなのかを考える。			
成績評価法	質疑応答における発言の質・量(50%)、および不定期試験(50%)によって評価する。			
テキスト	英語の論理・日本語の論理 / 安藤貞雄 / 大修館書店			
参考書	大修館英語学事典 / 松浪有ほか(編) / 大修館書店 日本語百科大事典 / 金田一春彦ほか(編) / 大修館書店			
履修に当たっての注意・助言 / 準備学習	毎回の指定範囲を事前に熟読のうえ、内容に関する質問・意見を授業開始時に紙面で提出すること。			
講義計画				
1. 前期オリエンテーション 2. 個の論理と集団の論理 (1) 3. 個の論理と集団の論理 (2) 4. 個の論理と集団の論理 (3) 5. 表現構造の比較 (1) 6. 表現構造の比較 (2) 7. 日本語の特質 (1) 8. 日本語の特質 (2) 9. 語彙の比較 (1) 10. 語彙の比較 (2) 11. 語順の比較 12. 文構造の比較 (1) 13. 文構造の比較 (2) 14. 文構造の比較 (3) 15. 総括 (1) 16. 後期オリエンテーション 17. 音韻体系の比較 (1) 18. 音韻体系の比較 (2) 19. 音韻体系の比較 (3) 20. 文字体系の比較 (1) 21. 文字体系の比較 (2) 22. 主語と主題 (1) 23. 主題と主語 (2) 24. テンスとアスペクト (1) 25. テンスとアスペクト (2) 26. ダイクシスの比較 (1) 27. ダイクシスの比較 (2) 28. 社会言語学と翻訳(1) 29. 社会言語学と翻訳(2) 30. 総括 (2)				